

根本的な課題解決に向けての取組

携帯電話による様々なトラブルの問題は、「携帯電話を持たない」、「学校に持たない」だけでは解決できません。何の対応もしなければ、児童生徒にとって無防備で危険な状態が増幅していくことが考えられます。これからの情報社会を生きていくためには、

携帯電話の利便性や危険性を認識させ、様々な情報や情報機器の利用法を取捨選択できる力をつけさせる ことが必要です。

【家庭】（利便性や危険性の正しい認識とルールづくり）

- ・携帯電話の利便性や危険性（メール依存の弊害等含む）についてしっかり話し合い、必要がない限り持たせない。
- ・持たせる場合は、家庭内でのルールをつくり、徹底する。
- ・子どもに限らず家族で携帯電話やインターネットのメディア特性等をしっかり学び、理解を深める。
- ・フィルタリングサービスを積極的に利用し、危険なサイトに接続するのを防ぐ。
- ・子どもたちの携帯電話やインターネットの利用の実態を十分に把握する。
- ・学校と連携して、ネットによるいじめを受けた子どもへのきめ細かなケアを行う。

【学校】（情報モラル教育の充実）

- ・携帯電話やインターネットなどの利便性や危険性をしっかり学び、情報機器の利用法を取捨選択する力をつけさせる。
- ・携帯電話やインターネットの利用の実態を十分に把握する。
- ・家庭に対し、情報モラル（メール依存の弊害等含む）についてしっかり話し合うことを呼びかけるとともに、フィルタリングの普及を働きかける。
- ・情報を適切に利用するリテラシー教育を徹底させる。
- ・学校での「携帯電話の取り扱いに関するルール」を必ず策定し、徹底する。
- ・日頃から校内の相談体制を整備するなど、ネットによる誹謗中傷の未然防止や早期発見に努める。
- ・誹謗中傷を発見した場合は、被害児童生徒や保護者に対して迅速かつ適切に対応する。

【行政】（対応マニュアル及び情報モラル教育の啓発）

- ・児童生徒の携帯電話及びインターネットの利用や「ネットいじめ」等の実態把握を行い、情報提供をしていく。
- ・教職員や保護者向けの研修や説明会などを通じて理解の促進に努める。
- ・危険なサイトに接続するのを防ぐフィルタリングサービスの積極的利用を啓発する。
- ・実践的な研修の実施や、「対応マニュアル」や「ネット上のいじめ問題」に関する取り組み事例集を作成・配布（配信）する。